

実践研究報告書

横浜市立岡津小学校

校長 小竹 護

テーマ 『人のたんじょうについて探ろう』

1 健康教育に係る学校の現状と課題

本校は健康教育目標のもと、学年別の目標を設定し、体育の保健学習を中心とした各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間、その他にも学校保健委員会や食教育・心身の成長発達に関する学習の中で健康教育を推進していく計画となっている。学校保健計画としては月目標を立て、保健委員会の児童による周知徹底を図っている。

養護教諭が1名配置の学校であり、保健室にはけがや病気の訴えだけでなく、居場所を求めて来室する児童も多い中、専門知識のある養護教諭の授業が望めず、担任主導の健康教育となっていることが課題としてあげられる。

2 実践のねらい

今年度の本校の重点研究が理科学習であった中で、単元「人のたんじょう」に取り組むこととした。単元の目標は、人の誕生や成長について興味・関心をもって追究する活動を通して、人の発生や成長について推論しながら追究する能力を育てるとともに、それらについての理解を図り、生命を尊重する態度を育て、人の誕生や成長についての見方や考え方もつよようにするということである。児童が調べたいことがはっきりしてからは、各自が調べ学習を進めていくこととしたため、あらかじめ調べやすい資料を用意する必要があった。資料が豊富にあることは、学習に意欲的に向かうことができ、共通の話題ができたり、意見交換もしやすくなる。生命の誕生についての資料は児童にとって、リアルすぎると抵抗を覚えることも考えられるが、「OTSUKA 漫画ヘルシー文庫」は文章表現が易しく、漫画でも表わされているため、児童が抵抗なく受け止められる教材であると考え、本単元の資料として活用することとした。

3 実践の内容と成果・課題

(1) 実践組織（校内体制）

「OTSUKA 漫画ヘルシー文庫」は常に保健室に常備している。今までは保健委員会の児童が委員会の取組みの中で資料として扱い、文章の書き方やイラストの使い方を参考にしてきた。理科学習の中で資料として扱うのは今回が初めての取組みとなる。

(2) 実践内容

メダカの誕生を学習した後、第1次で人の誕生について考え、人とメダカの共通点・相違点を学習した。第2次では人の誕生の秘密「わたしたちがどのようにして生まれてきたか調べよう」ということで資料を利用して自分の調べたい課題を追究した。

- ・受精卵はどのようにしてできるのか。
- ・どんなふうに成長していくのか。
- ・へその緒の役割は？
- ・お腹の中で呼吸や食べ物はどうしているのか。

これらを調べる資料として「OTSUKA 漫画ヘルシー文庫」を活用、その内容を自分のノート作りの参考にする児童が多く見られた。

(3) 成果

絵や文がわかりやすく、児童の目線に立った内容で書かれているため、まとめやすく、抵抗なく学習をすることができた。生命の神秘、不思議を十分に味わい、生命の連続性についての見方や考え方がもてるようになったと思う。3億もの精子の中からたった一つの精子と卵子が会って生まれてきたのが自分であるという奇跡を感じ、命の素晴らしさを感じとることができた。「OTSUKA 漫画ヘルシー文庫」はそのねらいにあった表現がされていたので有効な資料だったと思う。

(4) 課題

有効な資料であった「OTSUKA 漫画ヘルシー文庫」だが、発行年が古く、1冊しか手に入らなかったために、必要としている児童が自由に手にすることができなかった。今回はコピーをして対応したが、インターネットで閲覧できるようにする等、多くの児童が活用できる方法があればよりよい実践ができたと思う。

4 実践のまとめ

今回、実践をしたことで「OTSUKA 漫画ヘルシー文庫」が体育や家庭科、道徳の学習にも生かすことができ、教育活動のいろいろな場面で活用できることを知ることができた。校内研究授業で提案したことで、校内の他の教員が「OTSUKA 漫画ヘルシー文庫」の存在を知る機会にもなった。今後もっと児童が気軽に手にすることができるような工夫を考え、児童が新しい本の発行を楽しみにするような環境作りをすすめていきたい。